

いよいよ待望の  
電動ポイント登場

コナミ

デジQトレイン

本領発揮

DigiQ TRAIN  
デジQトレイン™

▶電動ポイントの登場で、レイアウトの楽しみも大きく広がる。製品は従来のレールと同様の茶系のカラーになる。

数ある鉄道おもちゃの中でもコナミ・MICRO R デジQトレインにコンパクトさとリアルさ、そして抜群の機能性を兼ね備えたものとして注目されている。而かも電気配線など一切不要で、高度で複雑な運転が楽しめることはデジQトレイン最大の特徴だ。具体的には、赤外線コントローラー技術を駆使して、手元のコントローラーの操作によって列車の加速・減速や進行方向の切り換えが自在に行えるのだ。そしてこのたび待望の電動ポイントが発売される運びとなり、レイアウト全体の遠隔操作が実現することになった。

電動ポイントにも配線などは一切いらぬ。単4乾電池2本を電源として切り換え機構を駆動している。コントローラーからの赤外線信号による遠隔操作の他、ポイント自体に備えたボタンスイッチによって切り換えも可能。



▼電動ポイントの試作品。鉄道の駅のボックス内に単4乾電池2本をおさめ、ポイントマシンを駆動する。



▲他にも運転が楽しくなる発売アイテムの発売予定が控えている。左はエンドレールの試作品2種。好みの車輛の時代背景に合わせて選択できる。右は手動Y字ポイントの試作品。

text: RMM  
photo: 廣田 健  
協力: コナミ



またボタン操作でIDを個別に設定し、コントローラーのパネル上のどのボタンに対応するのかわき選びできる。IDは全部で32種類、言い換えれば路線などせずに32個のポイントを同時に使用できることになる。実用上充分な数と言えるだろう。また、渡り線などで2つのポイントを同時に切り換えたい場合、その2つのポイントに同じIDを割り振ればいい。非常にシンプルなシステムで、鉄道模型でこの手の配線に苦労したことのある人にはその恩恵が実感できるだろう。

作動は確実で、コントローラーのボタン操作で即座にカチャリとポイントが切り換わるのは気持ちがいい。模型鉄道を運転する楽しさを存分に味わうことができる。列車交換や追い抜きなどのリアルな運転も思いのままだ。デジQトレインの高機能を最大限活かした楽し



み方が、電動ポイントの登場で一挙に開花すると言っている。

電動ポイントの発売は3月下旬の予定。分岐側の曲線半径が176mm、角度が45度のも（R176-45）と、曲線半径が264mm、角度が30度のもの（R264-30）の2種、それぞれの右分岐・左分岐がリリースされる。なお、手動Y字ポイントやエンドレール2種なども2月20日に発売される予定だ。

高度な機能を持った模型鉄道システム。デジQトレインの大きな目標がいよいよ明らかになってきた。



▲電動ポイントの操作パネルのクローズアップ。▲電動ポイントの製品イメージ。R176-45\*およびR264-30\*それぞれIDの設定も簡単にできる。遠隔操作以外にその場で、その右・左で計4種が3月下旬にリリースされる予定だ。の切り換えもボタン操作で可能だ。

## JR西日本所属の700系B編成

発売までもないデジQトレインの新しい入門用セット「700系B編成基本運転セット」には、JR西日本自慢の700系B編成が含まれている。単品で発売されている700系に比べて、前頭部側面に「JR700」のロゴが追加されている。印刷もくっきりとシャープだ。

このセットは百貨店ルート限定の発売で、パッケージも通常と異なる青いラインが入ったものになっている。車輛の他、組み立てると小判形エンドレスになるレール一式とコントローラーが付属。価格は5,980円。



▲JR西日本所属の700系B編成の特徴である、前頭部側面のロゴもシャープに再現されている。